



問 いちご産地の維持発展に向けた支援策は

答 JAと連携をとり進めている



青果パックセンターでの作業風景

問 生産農家の高齢化が進む中、町のいちご産地育成と維持発展に向けた考えは

町長 いちごは、本町農業の最も重要な作物の一つで、新規就農者等の参入も見られるが、生産面積や生産者数はほぼ横ばいで、産地としての将来の見通しは必ずしも明るいばかりとは言えない。

青果パックセンターは、出荷調整作業の負担軽減を通じて、さらなる規模拡大や収量向上に資するものと認識し、若者のいちご生産に対する意識や意欲も好転していくと期待している。

産地全体の維持・発展を目指す生産者の主体的な取組みに対する支援も検討する。



出荷の検査のようす

産業振興課長 いちご産地の維持発展は、まずは青年就農者を始めとする新たな参入者を確保していくかが重要と考え、JA等関係機関と連携して進めている。

また、具体的な支援策として、県の補助事業等に該当しない案件で、燃油高騰対策として地下水天井散水システムや、品質向上対策として炭酸ガス発生装置の導入など、産地として諸課題解決に向けた取組みに対し町単独で支援したい。

問 久留米柳川線改良工事は、歩道の未整備区間で歩行者や自転車にとって危険な状況であると23年6月に質問した。歩道の設置の見通しを伺う

建設水道課長 大溝駅交差点改良事業は、現在用地買収を進め、平成27年度から一部工事に着手。石丸山公園入口交差点改良事業は、年度内に地元説明会実施を計画。八丁牟田交差点北側から国道442号バイパス高架橋下までの区間は、平成28年度の事業完了目標。また、上牟田口地区の花宗川にかかる下田橋北側約100メートルの区間も用地買収に着手している。

横溝町地区の自歩道整備は、平成28年度の事業着手を目標に、現在南筑後県土整備事務所と協議を進めている。

問 大川大木線の道本中島地区の交差点で事故が多発。信号機の早期設置を望む

建設水道課長 大木中学校への主要な通学路となっているところ亭東側の交差点は、年度内に信号機を設置。他の2箇所についても要望している。



信号機が設置される通学路交差点

問 現在は、自転車をスポーツとして楽しみ、また、健康増進に利用している人も多いためサイクリングコースの設置を要望した。その後の検討状況は

企画課長 現在は、通学路を中心にグリーンベルトの設置による歩行者に優しい道路づくりにより重点的に取組む方針。サイクリングコースの整備は、中長期的な課題として認識している。また、サイクリングマップは、現在散策用マップの作成をしており、自転車利用者にも活用していただきたい。